



ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION
Design News 43° vol.27



ADA2012年度の活動、そして10年をふりかえる

旭川デザイン協議会 会長 小林 謙

近年、この会を取り巻く環境が大きく変動しているなか、昨年も会員のみなさまには、それぞれのお立場から「旭川デザイン協議会」の活性化にご尽力いただきました。ありがとうございます。私は2002年の会長代行を経て、2003年から会長を務めさせていただいております。10年の長きにわたり、会の運営や毎年の様々な企画など、みなさまの深いご理解と強いご協力をいただき、何とか会を継続してきました。在任10年の節目の年の終わりに、改めて会員のみなさまへ深く感謝申し上げます。

2012年度の活動

さて、昨年の活動の中で、先ず私たちの特徴であるデザインギャラリーでの通常活動を年間でふりかえりますと、企画展示内容などは、年間を通じ季節ごとの特徴が定着し、来館者数も安定してきたよう感じられます。

昨年も年度初めはJAGDAの皆さんの「北海道ポスター展 SMILE」から始まり、デザイン工房の展示、工芸デザイン協会、さらに次世代の「ミクルの手仕事展」も活発に開催されました。工芸分野の幅広い世代の交流に今後の展開を期待しております。

盛夏8月には旭川広告デザイン協議会展が開催され、今年は「メッセージTシャツ展」と異色の組み合わせがユニークだった講演会2題、そしてビールとバーベキューで楽しく交流するサマーパーティが恒例となりました。秋になるとデザインギャラリーでは、手芸やステンドグラスなど女性が多く集まる企画が目白押しで、とても来館者数が多いのも例年のことです。私はなかなか参加できず失礼しましたが、タイトルからして興味深い「かっちゃんのみもの〜小原ハル子 92才の手仕事展」やパッチワーク・キルト・ニットなど、ユニークで多彩な展示が増えているように思います。年末年始をまたいで行われた旭川デザイン協議会展では、「こころを、」をタイトルに、会員の作品展示、昨年に続いて楽しい餅つき大会、長原顧問による「ものづくりのこころ」講演会が開催され、会員交流・新年のお祝いそして地域のこれからのものづくり人の育成を考える機会となりました。

続いて行われた旭川広告デザイン協議会主催の「デザインキャンプ」は世代間・地域間の交流や次世代才能発掘のために、これから更是非続けてほしいと思います。その後定着している年間スケジュールでは、東海大学や高等技術専門学校の卒業制作作品展示が続きます。

このように各シーズンの特徴がでてきましたが、年間を通じて個人や同好会・学校等の各種団体による「いけばな」「書道」「写真」「絵画」「陶芸」「住宅」などの多様な作品展示に多数ご利用いただきました。旭川市民のものを生み出す文化欲求の強さを感じています。

隣接するチェアーズ・ギャラリーでは、「ハンス・J・ウェグナー展〜生誕100年への序奏〜」と現在開催中の「ウェグナー邸の椅子たち展〜生誕100年への序奏2〜」と、例年通り年間2つの企画が展開されました。このギャラリーで表現されていることは、ここでしかできないことであり、この地域・産業・デザイン・文化というものへ重要な鍵になり得るものでありながら、なかなか広がりをもてず、蓄積にならないことは残念だと思います。せめて記録としてまとまった冊子にできないものかと思うところです。

昨年のそれ以外の大きな行事では9月に初めて札幌で行われた3都市+1デザイン交流会議がありました。（会報vol26参照）

10年をふりかえる

この10年はやはり「激動の10年」と言って良いのでしょうか。世界の人口は7億人増え、旭川の人口は1万3千人減りました。イラク戦争が勃発し、日本も世界も政治はめまぐるしく変わり、世界中で大地震が起き、そして東日本では3月11日に、さらにその後のメルトダウンとエネルギー危機、戦争とは無縁と思っていた日本に領土問題が発生、猛暑と大雪等々。人間世界と自然、世界と日本、中央と地方、組織と個人、情報とものなど、それまでは、無意識でよかったものと自分の関係が「どうしよう、何とかせねば」ということになってきました。

私たちのような小さな組織でも、この10年間、押し寄せる変化の波に翻弄されながら試行錯誤し、とにかく何かやらねばという強迫観念のようなものに突き動かされて、行動して来たような気がします。2005年から2009年まで、会員の皆様に大変ご尽力いただきながら5年間続けた「デザインマンス」の一連のイベントも、「デザイン」全般の地域への啓蒙を通じて、北海道東海大学・東海大学の危機的状況（大学にとっても地域にとっても）に対して、打開の手がかりを模索する意味もあったと思います。

残念なことに「デザインマンス」は、単年度のイベントとしては一定の成果を挙げたものの、大きなうねり、ムーブメントのようなパワーを得るところまではいたらなかったという思いがあります。

この地域・産業・デザイン・文化というものの転換期にある今、いままでの無数のイベントや展示企画をふりかえり、もう模索から脱出し、未来につながる具体的な目標や方針をひねりださなければならないのだと思います。東海大学芸術工学部の廃止に伴い、旭川デザイン協議会に所属していた先生たちは旭川を去ります。産学官が一体となって活動してきたこの会も、基本的なところから組み立て直す必要があります。転換期は又結節点でもあります。今までの地域での活動を生かしながら、世代や地域を越えた多くの人々を、柔軟に、しかし強固な志で結びつける「外へ広がる」活動が、やがて地域から「ものづくり」の人材を生む力となって行くのだと思います。

たくさんの活動を通して、旭川デザイン協議会は多くのデザイン分野を横断的に結びつける組織になりました。デザイナーだけでなく色々な産業分野や旭川周辺地域との繋がりも出てきました。旭川デザイン協議会の活動を通して、ますます強く確信を持つのは、「デザイン」はこの地域にとって「切り札」であり「財産」であるということです。今後もそういった自覚の基でこの会が発展することを願っております。デザインギャラリー、チェアーズ・ギャラリーをご利用いただいている皆様、会の活動を支えていただいている個人・組織・企業会員の皆様、交流を続けている他地域の皆様に再度感謝すると共に、全面的なご協力をいただいている旭川市、上川倉庫様を始め側面から会を支えていただいている皆様に深く感謝し、これからも変わらないご支援を深くお願いする次第です。

ADA Exhibition 2013 「こころを、」を通して感じたイチバンの可能性

旭川デザイン協議会 副会長 やはずのよしゆき



2013年のADA展は、2012年12月18日（火）～2013年1月17日（木）の期間、デザインギャラリーにて、人にとっての核であり、だれもが持っているけれど決して目には見えない「こころ」というものをテーマに、会員の皆さまより自由なカタチで表現した作品を集めて展示しました。「こころを彫る」「こころをつなぐ」「こころを見つめる」「こころを躍らせる」などなど、それぞれが持つ「自分のこころ」を、グラフィックをはじめ、写真、文章、家具やクラフト、工芸まで広い分野での作品として展示し、会員力作の心をふるわせる作品で見る人に熱い(?)メッセージを送りました。



毎年恒例のADA展。マンネリ化する展示会を、見る側の人たちはもちろんのこと、参加する側にもいかに楽しんでもらえるか……など、年々ハードルが上がる中、今回の企画展は会員の皆さまよりアンケートを募り、ご要望の多かった「聞いてみたいセミナー」をベースに、その方の「こころ」を覗いてみたいという意見から組み立てられました。

このような考え方を通して、自分たちが住む「旭川」はもちろん、少しでも多くの人たちへメッセージが届くよう、これからもデザインやものづくりを通してより良いコミュニケーションを追求し、会員皆さまの参加意識の向上も含め、新たな試みをする気持ちを忘れずがんばっていきたくらいと願う企画展となったことが、ひとつの成果だったと思いました。

なお、今回ADA展を企画するにあたってイチバン「こころ」を揺さぶったのは、12月のとっても忙しい中にも関わらず行われたお酒つきの「のらくら会議」。。。これは来年度へ向けての新たな発見だったかも知れませんが。今までにないくらいの会員の方が多数お酒に釣られて集まり、企画話に花咲いたMTG。（笑）

きっと、このような交流がこれからの企画展（ADA展）を支えていくのかも知れませんが。。。と可能性を感じた年末の夜。（木っ端微塵）おつかれさまでしたっ!!



伊藤 歩
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科
旭川市出身
1992年6月13日生まれ

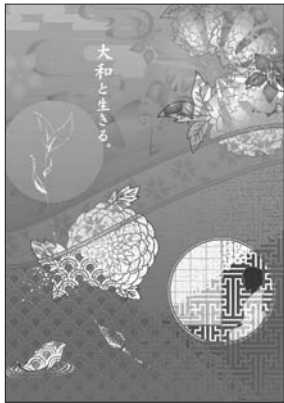


『きらきら』

テーマが「こころ」で真っ先に思いついたのが心臓でした。心臓が動く限り、生きて輝き続けること、を表したく、星をちりばめてきらきらした感じを表現しました。ハートで心臓を表して、周りの線は血管をイメージしました。永遠には続かないけれど、生きている限り動く心臓。生きている間はずっときらきら、輝いて欲しい、そんな気持ちをこめました。



遠藤 由花
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科
1988年4月13日生まれ



『和心』をテーマに作成しました。

大和撫子。大和魂。といった日本の強い信念を象徴する言葉があるように、優しさと強さを併せ持つ人間へと成長したいという気持ちを表現しました。また、世界中の良い所を取り入れるだけではなく、日本の歴史ある伝統も忘れることなく、独自の誇れるものを世界に発信していく日本の力を信じ作成しました。



藤岡 賢士
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科2年
1986年5月14日生まれ



『ココロ』愛する気持ちがあれば絆が生まれる。どんな難しい時でも、こころに希望を。

この作品には、心の中のポジティブな部分を忘れないでほしいという願いが込められています。辛いことや苦しいこと、何かに挫折しそうな時にはネガティブになり、全てから逃げ出したくなると思います。ですが、そんな時だからこそ前向きな気持ちでいれば、どんなことでも乗り越えられると思います。綺麗事かもしれませんが、誰でも元々こころに持っている強い気持ちを忘れなければきっと、素敵な未来が待っているはずです。こういった願いが、少しでもこの作品を通じて伝わると嬉しいです。



岐土 絵梨子
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科
1991年7月30日生まれ



心に広がる

心に広がるものをテーマにして、見たものの感じたものが心に届き広がっていく様子を表現しました。人の心は一つの事柄から様々な考えや感情を呼び起こすものだと考え、植物の葉のような流線になることで植物が上へ上へと葉を広げて行く様子を重ねあわせてイメージしました。



鹿田 了好
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科
1992年11月17日生まれ



心に残った言葉

テーマが「こころ」だったので自分が言われた時に心に残った言葉を思い出し作りました。英文の意味は、「明日やろうは馬鹿野郎」で中学校の先生が言った言葉で、当時は何でこんな事を言ったのかよく分かりませんでした。今になって思うと本当にそうだなと実感します。



三浦真理子
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科
1992年8月6日生まれ



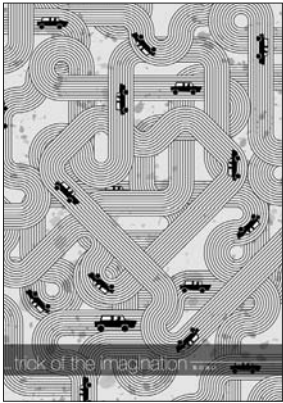
『いつのまにか。』

光が私たちの生活に欠かせないものと同時に、こころというものも、無くしてはいけなないもの。

この作品はテーマであるこころの中でも「照らす心」を題材にしました。「照らす心」それを目で見えるもので表すのであれば「まばゆい光」になる、ということを一枚で表現しました。私たち人を照らすのが常に太陽やライトといった光であるならば、人のこころは自然にひかりに惹かれ、誰でもそんなひかりのように、他の誰かの心を照らす光のような存在でありたいと思うはずです。そしてこの作品を制作していくにつれて、人というのは導く力を持っていて、それこそが光なのだと思います。そういった私自身の考えを少しでもこの作品によって伝えればと思います。



江口 理沙
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科
旭川市出身
1993年3月19日生まれ



『trick of the imagination-気の迷い-』

心の中で渦巻く想いは無限で他人には知られない迷宮のようなもので、ぐるぐる回っているということをテーマに制作しました。普段は見せない自分の中のわだかまりや、解決の糸口を探して悩んでいる心境を表現したかったのでそれを表すためにミニ四駆を連想しています。グルグルとコースを無限に回る姿が私自身の心と繋がり、この作品に仕上がりました。あえて無彩色で統一することによって、悩ましさを表現しました。



木下 未咲
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科2年
1993年1月7日生まれ



高校時代「『こころ』はミルフィーユのように幾層にも層が積み重なっている」という文に感銘を受けたのでミルフィーユを描きました。ストロベリーソース=涙を表し、絶望し流した涙も未来の糧となっていると思うときがきっと来る。だから、前を向いて。という想いを暗くならないようにポップに表現しました。



萩原 直哉
北海道立旭川高等技術専門学院
印刷デザイン科2年



『つなぐ心、見る心、楽しい未来』

テーマが「こころ」で思い浮かんだのがハートだったため、全てのハートがつながれ、何事もない楽しい未来が待っているのではないだろうか。心を見て心をつなぐこと、それが本当に想像していた「こころ」なのではないかと思っています。



2013年 新年会・餅つき

企画・催事事業部 交流事業部

1月12日(土) 13:30より新春恒例、こころをこめた餅つき大会が開催されました。昨年、初めて行った餅つき大会が大盛況。今年も引き続き桑原部長の返し手による、心を込めた餅つき大会となりました。

会場の片隅にはうすと杵、湯気を立てて蒸し上がった餅米が用意され、「よいしょ!」のかけ声が会場に響きわたると、参加した子ども達も興味津々。

会員のご家族やお友達、ご近所の皆さんとみなでお餅を丸めたり味つけして、つきたてのお餅をおいしくいただきました。



新年会

平成25年1月19日(土)

aadc展主催デザインキャンプに伴い、交流会&ADA新年会を開催、61名の参加となりました。



長原 實氏 講演会「ものづくりのこころ」

企画・催事事業部 副部長 勝浦恭子

長原さんを講師にお迎えしたADA展のセミナー企画、お話のポイントを要約してご紹介します。

若き日に汝の希望を星につなげよ

松倉定雄さんに学んだ「デザイン」

「昭和10年、東川町の農家に生まれた私は、中学校を卒業すると家具づくりの道に入りました。木工の職人として自信がついた20歳のころ、『デザイン』ということを教えてくれたのが、旭川木工指導所の松倉定雄さんです。私は松倉先生の所蔵する本を片っ端から借りて読みました。ヨーロッパやアメリカでは、プロフェッショナルなデザイナーとして活躍している方たちが書籍になっている。こんな世界があるという驚き。書物に登場する多くの方がものづくりの入り口として職人修行をしていました。当然ながらあこがれの星になる。こうなりたい、近づきたいと思う。ヨーロッパに行かなくては、という思いが強くなりました。」

ドイツでの3年間は、私の大学でした

「私の思いを見透かすように、旭川市が若者を海外に派遣研修させる事業を行い、私は昭和38年から41年までドイツで研修することになりました。ドイツは生産性が日本の2倍くらいで職人給料も日本の2倍程。車を買ってヨーロッパの美術館や博物館を100か所以上巡りました。ドイツでの仕事とこの美術館巡りが、私にとっての大学でした。この経験は、その後の私の家具

づくりに深くかかわってきます。」

北海道のミズナラで家具を作り、世界に売ること

「ヨーロッパで最もショックだったのは、北海道のミズナラが、家具材として大量に輸出されていたこと。さらに製品となって日本にも販売されていることです。帰国したら、北海道のミズナラで上質な家具を作り、世界に向けて輸出したいと考えました。会社を作るとき、私の思いに共感してくれた方が資金的に協力してくれ、会社設立から10年後には、東京・日比谷の日生劇場でワンマンショーもやりました。その後はバブル崩壊やリーマンショックなど、家具業界は厳しい時代が続いていますが、家具産地としての旭川の誇りは、1990年から国際家具デザインコンペが続いていることです。」

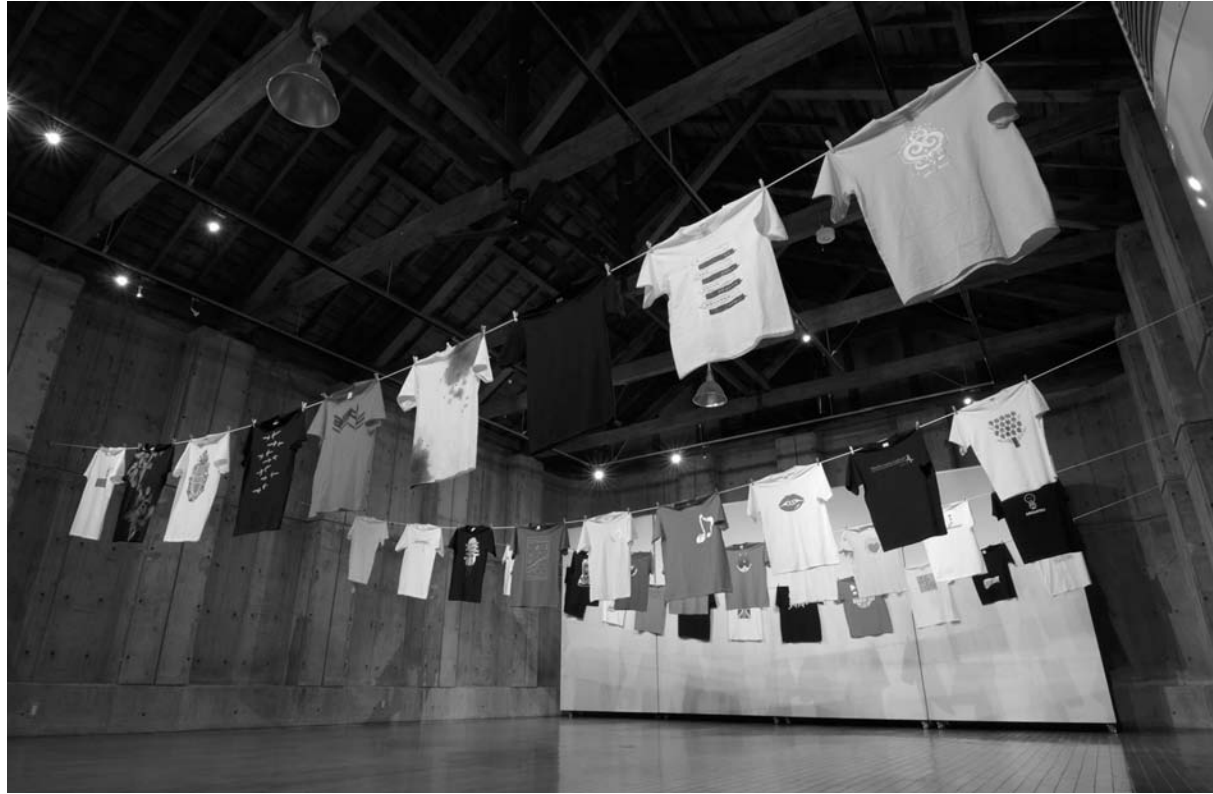
産・学・官が一体となって、旭川のものづくりを

「東京経由ではなくこの旭川に世界中からデザイナーが集まり、旭川から発信するという仕掛けを作ったのは、まさに東海大学があったから。産業界・大学・行政が三脚を立てて取組み、今日まで続けられる基盤を作ったのです。その東海大学が旭川からなくなろうとしています。これは地域にとって大きな損失です。大学は100年はその地域で続けなきゃ意味がない。一つの思想が社会を作るには時間がかかります。ですから、ぜひ公立ものづくり大学を実現したい。今、私は大勢の力を借りて実現させたいという思いでいっぱいです。」

aadc展2012「メッセージTシャツデザイン展」報告

aadcイベント交流懇親事業部 馬留康行

2012年7月31日(火)～8月12日(日)
旭川広告デザイン協議会



aadc展2012は、2012年7月31日(火)から8月12日(日)の期間、デザインギャラリーにて開催しました。昨年同様「メッセージTシャツデザイン展」と題しつつも、昨年のポスター形式での作品展示から、本物のTシャツを作品として展示するかたちに進化し、生活の中で身近なアイテムであるTシャツが、より現実的に身近に感じる作品展になりました。

「アリガト、」をテーマにした今回のTシャツ展では、制作手法をシルクスクリーンプリントと想定した昨年から、実際のシルクスクリーンプリントだけでなくカッティングシートプリント、4色インクジェットプリントと選択肢が増えた事により、それぞれの印刷技術の特性を活かす為の実験的な挑戦の場となり、中には、刺繍やリメイク、染め、それぞれの技法のミックス等、アイデアに富んだ作品も多かったのがとても特徴的でした。

昨年から始めた、aadc会員以外のデザイン・美術に携わる方々からの募集作品も含めて、総展示作品数は67点。会期中、会員

以外の方の作品も含めた全作品を対象に行った、ご来場者による人気作品投票アンケートでは、上位3作品すべてaadc会員の作品が受賞となりました。

今回、ひと作品のサイズが大きくなった事による展示スペースの問題や、大量生産向けの技術である、シルクスクリーンプリントでの一点物の制作による作品制作数の限界がある中で、展示作品数が昨年に比べて減少した事に対する会場デザイン、作品制作に向けた新しいアイデアの必要性が、更に見応えのあるものにする為の課題として残りました。

ギャラリーでの展示後、別会場での巡回展を経て、作者の元へ戻っていったTシャツ達が、いよいよ街へ飛び出し、実際のTシャツとしての役割を果たしながら、誰かや何かに「アリガト、」のメッセージを発信する事により、市民の方々のデザインへの興味喚起、クリエイティブに対するモチベーションの向上、業界、aadcの更なる活性化につながればと考えます。

デザインサロンを終えて

aadc副会長 細谷 壘

8月11日(土) 開場13:30

第1部:伊藤隆夫氏「グラフィックデザインのむかし話」14:00～14:40

第2部:堀内明日香氏「宝塚式 心と身体の磨き方」15:00～16:30

私ども旭川広告デザイン協議会(aadc)では、「aadc メッセージTシャツデザイン展」の会期(7/31(火)～8/12(日))に合わせ、旭川デザイン協議会との共催による「第2回デザインサロン」を8月11日(土)14時より開催いたしました。デザインサロンとは、各方面で活躍されている方々を講師に招いて仕事に役立つ講座や人生にプラスになるお話をお聞きする気軽なトークイベント。

aadcとしては初めて関わるイベントだったため、講師の選定や交渉、段取り等不慣れな点が多々あり、かなり不安ではありましたが何とか無事当日を迎えることができました。



第1部では元・通産省のエリートで知的財産権や商品ブランドに明るい弁理士の伊藤隆夫さんによる「グラフィックデザインのむかし話」と題し、貴重なデザイン関係の資料をもとにミニ講座を実施していただきました。第2部では、札幌市出身の元・宝ジエンヌ堀内明日香(華凜もゆる)さんより、宝塚音楽学校と宝塚歌劇団で得た様々な経験を生かしたマナーや姿勢に関わるお話をいただきました。第1部の伊藤さん、第2部の堀内さん共に普段なかなか聞くことの出来ないお話を聞くことができ、デザインを学び始めた若者達からベテランデザイナーまで、とても楽しく新鮮な感覚を得られたトークイベントでした。

講師を務めていただいた伊藤さん、堀内さんに深く感謝すると共に、お手伝いいただいた会員の皆さま、研修事業部の皆さま、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

デザインキャンプを終えて

aadcイベント交流懇親事業部 馬留康行

2013年1月19日(土)、デザインギャラリーにて、ゲストに映像演出家の石井K孝城(いしいけーたかき)さんと、コピーライターの讃良奈央子(さからなおこ)さんをお招きして、コーディネーター(aadc副会長・弦間信)を交えてのトークショー「旭川デザインキャンプ2013」を開催いたしました。

会場には、讃良奈央子さんが手掛けられた、ポスター作品を展示。「ひらめき」をテーマとしたトークショーでは、ゲストお二人が携わった、六花亭・雪やこんこTV-CMや、それぞれの作品

をプロジェクターによる映像を通して紹介しながら、企画からモノが完成するまでのお話や、「ひらめき」を得る為に必要な事など、貴重なお話をいただきました。

トークショー終了後には、同会場にて「デザインナイト2013」を開催。食事、ゲーム、会話を通して、普段なかなかお話しする機会が少ない、デザイナーとの距離が縮まる、これも貴重な親睦の場となりました。



JAGDA北海道 ポスター展 2011

テーマ「SMILE」

来場者数：441名

2012年4月24日(火)～5月6日(日)

旭川デザイン協議会、社団法人日本グラフィックデザイナー協会北海道地域



第45回 旭川工芸デザイン協会展

会員テーマ展「未来を照らすあかり」

招待作家展「私たちの仕事」展 (工房しょうぶ、くるみの木、エフスタイル)

来場者数：917名

6月12日18:00～ 講演会(平塚智恵美氏「わたしたちの仕事」)、オープニングパーティー



デザインギャラリーからのメッセージ

デザインギャラリー運営・管理事業部 部長 池本裕治

一段一段積まれた赤レンガ
硬い木のフローリング
コンクリート打ち放し仕上げの壁
年月を重ねた木造の小屋組
敷き詰められたレンガを踏みしめ
黒い鉄の扉を開けてごらん

旭川デザインヤラリーは貴方の開催を皆様のご利用をお待ちしています。

展覧会、個展、パフォーマンス、あなたのストーリー。
天井は高く、空間演出の良さ、アクセスの良さ、手ごろなご利用料金。
貴女の願い、貴方の思い、作家の流儀を思う存分発揮ください。
表現を思いのままにできる
デザインギャラリーのご利用をお待ちしております。

■使用料新旧比較表 (単位：円)

	使用 日数	全館 22.2m×8.3m		Aタイプ 5.4m×6.6m		Bタイプ 8.3m×10m	
		新	旧	新	旧	新	旧
夏期 (5月～10月)	1日	15,000	7,500	4,400	2,400	8,800	4,800
	2日	21,000	15,000	6,400	4,800	12,800	9,600
	3日	27,000	22,500	8,400	7,200	16,800	14,400
	4日	33,000	30,000	10,400	9,600	20,800	19,200
	5日	39,000	37,500	12,400	12,000	24,800	24,000
	6日	45,000	45,000	14,400	14,400	28,800	28,800
冬期 (11月～4月)	1日	11,000	6,000	4,500	2,000	9,000	4,000
	2日	16,000	12,000	6,000	4,000	12,000	8,000
	3日	21,000	18,000	7,500	6,000	15,000	12,000
	4日	26,000	24,000	9,000	8,000	18,000	16,000
	5日	31,000	30,000	10,500	10,000	21,000	20,000
	6日	36,000	36,000	12,000	12,000	24,000	24,000

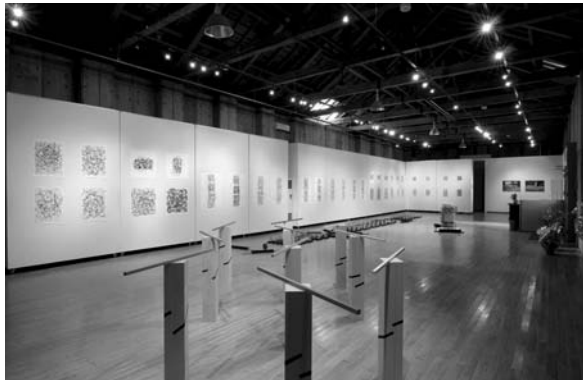
平成23年10月6日改正 平成24年4月1日より実施

※使用日数が減る場合は、1日につき、全館使用の場合、夏期6,000円、冬期5,000円を減額します。
Aタイプ使用の場合、夏期2,000円、冬期1,500円を減額します。
Bタイプ使用の場合、夏期4,000円、冬期3,000円を減額します。
※1時間延長毎に1,200円の追加となります。
※設営・撤去時(月曜日)は原則として料金はかかりません。

デザインギャラリーの空間の中で

E.N.GALLERY主宰 荒井善則

昨年の秋、デザインギャラリーで3回目の個展を終えた。
倉庫だった建物は、天井が高く梁を見せながら壁のコンクリート打ちっぱなしと、床のフローリングを活かしたことで、歴史をつなぐ空間として今も存続する。



場を重要視するインスタレーションを生み出す原点として、創造のイマジネーションをかき立てる不思議な魅力が内在する。
個展や色々な展覧会に参加して来たが、デザインギャラリーは私の表現を受け入れてくれる空間として、素敵なパートナーと写る。この空間を考えながら作品を組み立てて展示する、その都度色々な想いが巡り、年に一度、この場所で個展を続けたいと思っている。同時に、交流を持って来た作家たちにコラボレーションを呼びかけたい、と個展同様に空間を画策する。
1週間の会期ではあまり短いこともあり、2週間の正味12日間の中で、作品と共に我が思考を冷静に振り返る贅沢な時がある。
初雪に見舞われ、宮下通りが晩秋の紅葉で彩られ、一年振りに知人友人が集い、観光の途中に、人それぞれの感想を抱きながら作品に触れ、会話がはずむ。希望が適うなら、暖房機の位置と色が変わり、移動式パネルがきれいに整備されれば、会場全体がよりすっきりとして一つにまとまるだろう、とギャラリー空間を眺めながら秋に向けた作品のエスキースを始めた。

アトリエ・デシモーネ ステンドグラス作品展

ステンドグラスアトリエ・デシモーネ代表 及川知巳

私が主宰するステンドグラス工房では毎年秋の作品展を、デザインギャラリーで9年連続開催させていただいております。
作品総数が120点を超える規模の展示にはそれに見合った会場が必要になりますが、デザインギャラリーはその希望が叶

う貴重な存在です。旭川駅からのアクセスの良さ、備品の充実度、車椅子対応のトイレの存在、リーズナブルな使用料など大変満足しています。さらには大正時代に建てられた歴史的建造物という雰囲気も相まって、各作品も素晴らしく展示映えます。
お陰までご来場いただくお客様にも好評を得まして、現在では6日間の会期中に2000名様を超えるご来場をいただけるまでとなりました。また近隣には大雪地ビール館をはじめとした商業施設も充実しており会場関係者はもとより、ご来場いただいたお客様にとっても大変便利な立地と感じています。しかしながら知名度的にはいまだ十分ではないのが現状です。
今後はTVや新聞をはじめとした各メディアへの露出の機会を積極的に増やして行き、デザインギャラリーを含め蔵囲夢の存在をアピールし続けることが、私をはじめ会場利用者にとっても、必ずやプラスに繋がることと信じております。



CHAIR² GALLERY

ウェグナー邸の椅子たち展 ～生誕100年への序奏2～

■期日：2012年11月6日(火)～
2013年5月26日(日)

■開館時間：11:00～17:00(～4月30日)、
10:00～18:00(5月1日～)

■休館日：毎週月曜日、
12月30日(日)～1月4日(金)

■主催：旭川デザイン協議会、
織田コレクション協力会

■協力：濱田由一、旭川家具工業協同組合

■入場：無料



ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION

旭川デザイン協議会

〒070-0030 旭川市宮下通11丁目 蔵園夢
コレクション館内

Tel.0166-23-3000 Fax.0166-23-3005

E-mail ada@ada-jp.org

Hp <http://ada-jp.org/>

2013 Vol. 27

発行日／2013年3月26日

発行／旭川デザイン協議会

発行責任者／小林 謙

編集／広報事業部

印刷所／榊須田製版旭川支社

